第25回西日本事例発表オンライン研修会 エントリーシート

法人名	スミリンケアライフ株式会社	施設名	エレガーノ甲南
発表タイトル	看取り期の家族ケア～家族に寄り添う支援を目指して～		
研究の目的	これまで多くの看取りケアをする中で家族への支援の必要性を感じ、経過に応じた対応をしてきたが、多種多様な家族背景や価値観の違いに直面し、それぞれの家族の思いに沿ったケアを難しく思う場面が多くあった。そして、家族が求めるケアや不安・葛藤に対し、納得のできる支援が十分にできていなかったのではないかという課題が残った。そこで私たちが家族のおかれている状況をより深く理解し、思いに耳を傾け不安に寄り添うことができていれば家族の安心・納得のできる対応に繋がるのではないかと考えた。看取り期の家族ケアについて、実態を把握するためにスタッフへの意識調査をし、得られたデータから内容を質的に分析し、問題点の抽出と整理を行う事とした。		
発表の概要	看取り期の家族ケアについて、実態を把握するためにスタッフへの意識調査をし、得られたデータから内容を質的に分析し、抽出した4つの概念を考察した。		
研究方法	当施設重介護フロアの看護師4名・介護スタッフ15名を対象に家族ケアについてのアンケート調査を実施。アンケートの集計、自由記述の内容は川喜多次郎氏によって考案された、小集団による問題解決の技法である KJ 法を参考に、以下のように概念整理した。 アンケートで得られた自由記述を繰り返し読み、看取り家族に対するケアに関連している内容について述べている部分を抽出する。出てきた言葉をデータ化し、類似のあるものをグループ化したのち、概念名を命名する。		
成果･結果	アンケートによって得られた自由記載をデータ化し、KJ 法を参考に分別・要約し検討した結果、看取り期の家族ケアに対するスタッフの課題として4つの概念が抽出された。1つ目は、家族間の意見の違い・現状の理解が不十分な家族の対応が難しいという要約から【介護スタッフの家族支援に対する不安と苦手意識】,2つ目は、誤嚥のリスクがあっても食べさせたいという、家族の希望にどこまで応じてよいのか、本人はどう感じているのか分からないという要約から【家族の心の揺れに対する捉え方】3つ目は、看取りの経験不足や、様々な家族の思いにどう接してよいのか分からないという要約から【家族の思いと希望に対する対応の仕方】4つ目は、スタッフと家族の関係性の構築と、家族の心のケアが必要であるかという要約から【家族を支えるための関係性】であった。		
考察	４つの概念についてそれぞれ考察を行った。そのまとめとして、家族との信頼関係を築くまでの時間が少ない中で、看取りケアが始まる難しさ、家族に寄り添い思いを叶えたいという思いがあり、家族から感謝の言葉をかけてもらったなど、やりがいや達成感がある一方、それ以上に不安が上回る結果が明らかになった。		
アピールポイント 伝えたいこと 他のホーム･取組みと比較した優位性など	重介護フロアであり、これまでも入居者のエンドオブライフケアの推進に努め、家族を含めた看取りの質の向上を目指し、看取り期についての研究にも取り組んできた。 今回は、看取り期の家族の思いと、家族ケアに関わるスタッフの思いに焦点をあて、研究に取り組みアンケート調査により得られた情報を整理し、概念名をつけることで問題点が明らかになった。この結果は、今後の看取り期の家族ケアの充実に繋がる結果になった。		